

黒崎の魅力を伝えたい！



手鎌地区公民館だより

特別号



黒崎公園周辺をめぐり、歴史にふれるひとときを過ごしました。



講師のアドバイスを受けながら執筆活動に励む受講生の皆さん。

手鎌地区公民館では令和3年11月27日(土)から12月25日(土)までの全4回、地域ESD推進事業「てがま歴史講座～黒崎物語～」を開催しました。

受講したのは、手鎌校区をはじめ市内外の40歳代から80歳代までの21人。黒崎の歴史や名所・旧跡について座学、見学を交えて学びました。

講座最終回には「黒崎の魅力を、地域みなさんに伝えよう！」との思いから、学んだことをまとめる作業を実施。まずは班に分かれてこれまでの学習を振り返ったあと、ひとり一カ所担当を決め、原稿を書きました。

受講生の“想い”が詰まった成果物を「公民館だより特別号」として、皆さまへお届けします！

黒崎—有明の海を照らす^{こうぼう}光芒

黒崎公園は、現在のみやま市と大牟田市の境に近い岬の一角、甘木山丘陵が西へと延びた先端に位置する。

「日本書紀」によると、武内宿禰(たけのうちすくね)が有明海を航行中、深く秀でた山をご覧になり「船をかの黒の岬に寄せよ」と命じられたのが黒崎の地名の起こりといわれており、はるか昔から重要な地と認識されてきたことがうかがえる。

今は木々が生い茂り、昔のような絶景を見ることができず、旧跡や古墳も手入れが必要な状態である。



1950年代前半の黒崎海岸の様子
「年表と写真で見る大牟田市の100年」より

黒崎公園周辺地図



①黒崎公園のツツジ



黒崎公園は昔からの篤い信仰の山。そこに彩りを添えるのが桜とツツジである。

ツツジは昭和47年、河野澄人氏が淀川ツツジの苗500本を市に寄贈したのが始まり。その後、河野氏や市によって植え足され、地域住民の協力を得て約2500本のツツジ公園となった。

②黒崎観世音塚古墳



全長100メートルにも及ぶ、前方後円墳。出土した埴輪

から、4世紀末(古墳時代)の築造と判明した。有明海沿岸で最大であり、有明海一帯を治めた盟主たる人物が眠る古墳であったと推察される。黒崎古墳群から発掘された舟形石棺は九州国立博物館に展示されている。

③黒崎観世音堂



創建は1765(明和2)年で、吉祥寺跡に建てられたと伝えられている。

本尊は観世音菩薩。前年に火災で焼失し、1983(昭和58)再建された。「三池四国八十八カ所」の四十八番霊所となっており、五穀豊穰、無病息災の神様として崇められている。

④一石一字之塔



観世音堂の広場の西側に、1770(明和7)年庚寅9月17日建立の一石一字塔がある。建主は高

野玄逸惟寛。一石一字塔は供養を目的に建立されるもので、立花宗茂公の朝鮮出兵の武運を願って造られたとの説があるが、時代的にはいささか無理があるようだ。